

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 22 日現在

機関番号：32617

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25380166

研究課題名(和文) ポスト代表制における民主主義の諸問題 代表制、熟議システム、直接民主主義

研究課題名(英文) Problems with Democracy in Post-Representative System: Representative Democracy, Deliberative System and Direct Democracy

研究代表者

山崎 望 (yamazaki, nozomu)

駒澤大学・法学部・教授

研究者番号：90459016

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、三つの研究成果を達成した。第一は現代社会における代表制民主主義の正統性の危機の要因をグローバル・リスクの観点から明らかにした点である。第二は代表制民主主義を相対化する形で生成している、「新たな民主主義」(熟議システムと直接民主主義)をめぐる言説の配置を、正統性の観点から考察した点である。第三は様々なタイプの民主主義間の関係を考察し、その節合から正統性を調達する民主主義論を提示した。

これらの考察によって低下する代表制民主主義の正統性を補う、様々な民主主義のコンステレーション(配置)理論の考察の基礎を構築することができた。

研究成果の概要(英文)：This study achieves three research outcomes. It first clarifies the factors responsible for the crisis of legitimacy facing representative democracy in contemporary society from the global risk perspective. Second, it assesses the alignment of “new democratic” discourses (i.e., deliberative system and direct democracy) that have emerged in forms that have relativized representative democracy from a legitimacy perspective. Finally, third, it considers the relations among these various types of democracies and presents a theory of democracy that derives legitimacy from their articulation.

Through these considerations, this study has been able to build a foundation for examining the alignment of various democratic forms that would enable the strengthening of the legitimacy of faltering representative democracy.

研究分野：政治理論

キーワード：民主主義 代表制 熟議民主主義 直接民主主義 ラディカルデモクラシー ステークホルダーデモクラシー ポピュリズム 熟議システム

1. 研究開始当初の背景

(1) 現代世界では、未曾有の規模で「民主主義はグローバル化」している。しかしグローバルなテロや世界経済危機を前に、民主主義の正統性 (legitimacy) の危機が指摘されている。対米同時多発テロやリーマンショック、福島原発事故を契機に、内外でリスク論への関心が高まっている。現代の民主主義が、国民国家を基礎とする代表制民主主義であり「国内政治の公的領域」で作動するならば、その境界線を越えるリスクに対処する事には、構造的な「限界」が存在する。

(2) ナショナルな代表制民主主義の正統性の危機の深化の他方で、新たな形の民主主義による正統性の回復が模索されている。

90年代以降には東欧革命や、「政府の失敗」及び「市場の失敗」を背景に市民社会論が脚光を浴びたが、その市民社会に基盤にした公共圏における熟議 (deliberation) や闘技 (agon) による民主主義を模索するラディカルデモクラシーが模索されている。とりわけ利益政治中心の民主主義論と共同体を重視する民主主義論の双方から距離を取る熟議民主主義論の進展は目覚ましく、政治過程への組み込みも模索されてきた。日本における原発の是非を問うたナショナルレベルの討論型世論調査 (DP) も記憶に新しい。さらに熟議の制度化のみならず、多様な熟議と参加のアリーナの相互連関を「熟議システム」と捉える研究も進んでいる。

また金融危機に見舞われた南欧諸国をはじめ、「アラブの春」を経て、米の「ウォール街を占拠せよ (OWS)」、日本の「脱原発デモ」など、「我々は代表されていない」と認識する人々による中心組織なきデモや占拠は、国境と公私区分を越え世界各地に噴出している。これを代表制民主主義の正統性の危機を背景とした、新たな「直接民主主義」として解釈する研究も進んでいる。

2. 研究の目的

(1) 現代世界における代表制民主主義の正統性の危機の要因を、国内/国際及び公/私の区分を越えるグローバル・リスクの観点から明らかにする。

(2) 代表制民主主義を相対化する形で生成している、「新たな民主主義」(具体的には熟議システムと直接民主主義)をめぐるとの配置を正統性の観点から再構成する。

(3) 様々なタイプの民主主義間の関係と、

その節合形態から正当性を調達する民主主義論を提示する。

3. 研究の方法

三つの課題領域を三人の研究者が中心となって分担し、幅広い分析視覚を確保すると同時に、共同研究の利点を活かして各議論の布置関係の検証を深め、研究成果を有機的に統合する。具体的な方法としては、三年間は申請者を代表として成果を上げてきた三つの研究会を研究拠点として、研究課題と成果を共有して推進する。また本研究を効果的に実施するため、申請者を中心に共同研究会を設置する。毎年関連する論文を執筆し、最終年度までには研究成果を統合した著作の公刊を目指す。

【課題領域1】

代表制民主主義と熟議民主主義

【課題領域2】

代表制民主主義と直接民主主義

【課題領域3】

熟議民主主義と直接民主主義

民主主義間関係の理論化

4. 研究成果

本研究では、三つの研究成果を達成した。第一は現代社会における代表制民主主義の正統性の危機の要因をグローバル・リスクの観点から明らかにした点である。第二は代表制民主主義を相対化する形で生成している「新たな民主主義」(熟議システムと直接民

民主主義)をめぐる言説の配置を、正統性の観点から考察した点である。第三は様々なタイプの民主主義間の関係を考察し、その節合(articulation)から正統性を調達する民主主義論を提示した。

これらの考察によって低下する代表制民主主義の正統性を補う、様々な民主主義のコンステレーション(配置)理論の考察の基礎を構築することができた。

国内外において研究期間を通じて代表制民主主義、熟議民主主義、直接民主主義に焦点をあてた研究の蓄積も進んだが、相互の関係性に主に着目した本研究の独自性は高く、民主主義をめぐる各研究の再検討を促進させ、民主主義「間」研究の基礎を構築したインパクトは大きい。

また当初は予期していなかったポピュリズムの台頭(アメリカ大統領選や Brexit など)は本研究の問題意識である代表制の危機を改めて浮き彫りにすると同時に、検討中であった直接民主主義とポピュリズムの関係性を考察する必要が生じた。

ポピュリズムの台頭を通じて、本研究の目的の重要性が改めて実証されたと共に、代表制と他のタイプの民主主義との節合の必要性が急務であることが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5 件)

1. 山崎望「危機の時代における民主主義(1) 例外状態における統治」『駒澤法学』、査読無、第 16 巻第 3 号、2017 年、43 - 61 頁、2017 年 2 月。

<http://repo.komazawa-u.ac.jp/opac/repository/all/36201/>

2. 山本圭「It's the Populism, Stupid!」『現代思想』、査読無、vol.45-1、2017 年 1 月。

3. 高橋良輔「国際協力 NGO のアドボカシー・ポリティクス シンボルからアレゴリーへ」『生活経済政策』、査読無、No.232、24 - 28 頁、2016 年 3 月。

4. 高橋良輔「ポスト・グローバル時代の空間秩序像 古典地政学への回帰?」『青

山地球社会共生論集』査読無、創刊号、2016 年 5 月、3 - 41 頁。

<https://www.agulin.aoyama.ac.jp/opac/repository/1000/18939/>

5. 山本圭「不審と敵対 同一性のポリティクスから同一化のポリティクスへ」『現代思想』、査読無、43 巻 14 号、青土社、2015 年、212 - 219 頁。

[学会発表](計 2 件)

1. 山崎望「危機の時代における民主主義—民主主義の主体をめぐる—」日本政治学会、立命館大学大阪いばらきキャンパス、(大阪府茨木市)、2016 年 10 月 2 日。

2. 高橋良輔「アドボカシーの形態学 国際協力 NGO の葛藤」日本政治学会、立命館大学大阪いばらきキャンパス(大阪府茨木市)、2016 年 10 月 2 日。

[図書](計 9 件)

1. 山本圭『不審者のデモクラシー ラクラウの政治思想』岩波書店、2017 年、総 293 頁。

2. 高橋良輔「規範媒介者としての NGO アドボカシー・ポリティクスの理論と実践」西谷真規子(編)『国際規範はどう実現されるか: 複合化するグローバル・ガバナンスの動態』、ミネルヴァ書房、282 - 334 頁、2017 年。

3. 高橋良輔「NGO と政府—ポストナショナルな民主主義への挑戦」菊池理夫・有賀誠・田上孝一(編)『政府の政治理論』、晃洋書房、199 - 218 頁、2017 年。

4. 山崎望「『帝国』におけるシティズンシップ」錦田愛子編『移民/難民のシティズンシップ』有信堂、226 - 247 頁、2016 年。

5. 山崎望・山本圭(編) ナカニシヤ出版、『ポスト代表制の政治学 デモクラシーの危機に抗して』、2015 年、総 308 頁。

6. 高橋良輔「国境を越える代表は可能か?」山崎望・山本圭(編)『ポスト代表制の政治学 デモクラシーの危機に抗して』ナカニシヤ出版、57 - 90 頁、2015 年。

7. 山崎望(編)『奇妙なナショナリズムの時代—排外主義に抗して』岩波書店、2016 年、総 311 頁。

8. 山本圭「ラクラウ アーティキュレーションの政治理論」市野川容孝・渋谷望編『労働と思想』、堀之内出版、321 - 338 頁、2016 年。

9. 高橋良輔「国際秩序」押村高（編著）
『政治概念の歴史的展開 第7巻』晃洋書
房、87 - 106 頁、2016 年。

〔産業財産権〕

なし

出願状況（計 0 件）

なし

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況（計 0 件）

なし

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山崎 望 (YAMAZAKI NOZOMU)

駒澤大学・法学部・准教授

研究者番号：90459016

(2) 研究分担者

高橋 良輔 (TAKAHASHI RYOUSUKE)

青山学院大学・地球社会共生学部・教授

研究者番号：70457456

山本 圭 (YAMAMATO KEI)

岡山大学・教育学研究科・講師

研究者番号：90720798

(3) 連携研究者 なし

()

(4) 研究協力者 なし

()